

杉山明子教授のご退任にあたって

御 堂 岡 潔

杉山明子（めいこ）教授は、NHK の研究所でおよそ 30 年間研究を続けられた後、1988 年に現代文化学部が創られたときに東京女子大学にいらっしゃいました。ご研究領域の主要なものをあげてみますと、世論調査や統計学の方法論、世論調査の結果の分析および考察、放送番組に関わる研究などがあります。今でこそ IT の時代と言われ、パソコンという言葉も日常化していますが、初期の頃からパソコン（当時はマイコンと呼ばれていた）を使っていらした方の一人でもいらっしゃいます。

世論調査等の方法論に関する研究の主要なものは、『社会調査の基本』（1984 年、朝倉書店）にまとめられています。その後もこの方面へ貢献はつづけていらっしゃり、1996 年の『行動計量学』第 23 巻第 1 号では特集「社会調査の精度」のオーガナイザーをなさったり、また、最新のご業績としては、同じく『行動計量学』の最新号に「電話調査の精度」について書かれています。

世論調査の結果の分析・分析に関わる主要なご業績としては、「数量化理論の適用による聴取者層の分析」（1960 年、『NHK 放送文化研究所年報』第 5 集）、『日本の女性の生き方』（編著、1983 年、出光書店）、「日本人の意識の変遷」（2002 年、『新情報』第 86 巻、新情報センター）などがあげられるでしょう。

放送番組に関するご研究としては、まず、「日本を中心とするテレビ番組の国際フロー」（1982 年、『NHK 放送文化研究所年報』第 27 集）があげられます。これは、日本と諸外国のテレビ番組の輸出入について、詳細に調べあげ、まとめられたものです。この研究プロジェクトは International Television Flow Project と呼ばれ、その後も「メディアにあらわれる国家間の相互イメージ」に焦点があてられ、研究がつづけられています。現在、International Communication Flow Project と名前を変えた同プロジェクトですが、杉山氏はその代表の一人でいらっしゃいます。

さて、東京女子大学にいらっしゃったとき、現代文化学部は産声をあげたばかりでしたが、杉山氏はこの新しい学部の運営にたゆまぬ力を注がれました。専任の教授として在職されたのは 14 年間ですが、そのあいだに、教務委員長を通算で 6 年、コミュニケーション学科主任を 2 年、留学生委員長を 2 年など、さまざまな要職を務められ、また、ご退職を目前にひかえた 2001 年度には、大学院現代文化研究科会議議長（兼専攻主任）をなさっていらっしゃいました。

一方で、効率のよい教育システム（特に情報処理教育・視聴覚教育関係）を作り上げることに、情熱を注がれました。1993 年度から 1996 年度までの 4 年間、情報処理

教育・視聴覚教育関係の委員長を務められ、また、1997年度は、(学科主任と兼任で)情報処理科目主任をなさっておられました。

まさに、現代文化学部の運営、および教育システムの形成に関して、重要な基盤を作り上げた先生方のお一人であると言ってよいでしょう。

また、学生の教育という面では、主として「メディアの内容と受け手」の研究について関心をもつ学生の卒業論文指導をなさり、また、コンピュータ・情報処理科目関係、統計学、行動計量学など、しばしば実習をとまなう講義を、担当されていました。そうした講義等の中で、さまざまな工夫、新しい試みをなさることに熱心でいらっしゃいました。

その集大成とも言えるのが、2001年度に企画をなさった講義「IT革命と生活」でしょう。この講義は、コミュニケーション学科の講義であると同時に、武蔵野市寄付講座として開かれました。したがって、受講者には、学生だけでなく一般の市民も加わっています。また、13回の授業を通じて、講師が毎回変わり、それぞれの講師が得意とすることがらを論述するという、密度の濃い内容でした。

この講義には、その題目「IT革命と生活」にふさわしい工夫がなされていました。例えば、インターネット上にこの講義のホームページが作成されていて、1回1回の授業において「授業の内容」「配付資料」「講義録」などが、掲載されました。また、講義後半では、関心のあるテーマごとに、市民と学生がいっしょになってグループを作り、意見交換を重ねて、レポートを作成するようになっていましたが、その意見交換にはインターネット上の掲示板が活用されました。

講義「IT革命と生活」については、全111ページにわたる講義録が発行されていますので、詳細はそれをご参照ください。また、杉山氏自身によるご報告が、「市民と学生の融合を目指して」という記事名で、『東京女子大学 学報』2002年2月号に掲載されています。

さて、杉山氏ご自身から、東京女子大学に来てからはいろいろと忙しくて、「まとまった満足のいく仕事はあまりできなかった」と漏れ聞いております。「やり残したこと」「まとめ残したこと」が、たくさんあるそうです。

ですが、定年で専任教員を辞められた後も、非常勤で複数の科目の担当をお願いしています。また、学外でも、日本行動計量学会の理事長、社団法人日本世論協会の代表常務理事、文部科学省統計数理研究所の運営協議委員、社会福祉法人砂町友愛園の理事など、多くの仕事をかかえておられます。

活動的な杉山氏のことですから、これら忙しい仕事のあいまをぬって、「やり残したこと」「まとめ残したこと」を片づけるのは、それほどむずかしいことではないと思います。まずはそれらを片づけ、さらに新しく多少とも困難な課題を見つけ、それを独自の工夫で解決していく。そのような充実した人生を、これからも送っていかれることを、心より願っております。